

行政事業レビューシート（文部科学省）							
予算事業名		国際バカロレア事業への拠出		事業開始年度	昭和54年度	作成責任者	
担当部局庁		大臣官房国際課		担当課室	国際課企画調整室	企画調整室長 阿蘇 隆之	
会計区分		一般会計		上位政策	国際交流の推進		
根拠法令 （具体的な 条項も記載）		—		関係する計画、通知等	—		
事業の目的 （目指す姿を簡潔に。3行程度以内）		国際バカロレア事業への日本の立場を明確にするとともに、日本における高等教育機関等の国際化の推進に資する。					
事業概要 （5行程度以内。別添可）		国際バカロレア機構は、インターナショナルスクール等のバカロレア認定校の卒業生に、国際的に認められる大学入学資格である国際バカロレア資格を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として、認定校に対する共通カリキュラムの作成などを行っている。日本の拠出金は、日本における高等教育機関等の国際化の推進等のため、以下の事業に活用されている。 ○国際バカロレアのカリキュラムの開発及び教材等の日本語への翻訳 ○日本におけるワークショップやシンポジウムの開催等					
実施状況		平成22年1月、3万スイスフランを国際バカロレア機構に拠出した。					
予算の状況 （単位:百万円）			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
		予算額(補正後)	3	3	3	3	3
		執行額	3	3	3		
		執行率	100.0%	100.0%	100.0%		
		総事業費(執行ベース)	3	3	3		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	国際バカロレア機構から提出される前年度の収支報告書及び次年度の事業計画書を確認するとともに、年1回開催される国際バカロレア教育シンポジウムに参加することにより、状況把握に努めている。					
	見直しの余地	・国際バカロレア機構は、国際バカロレア資格(国際的に認められている大学入学資格)を与える業務のほか、共通カリキュラムの作成等を実施している。現在は、インターナショナルスクールのみならず、学校教育法第一条に該当する学校(以下、「一条校」と言う)の加盟校についても増加している状況(平成22年6月現在、日本における国際バカロレア認定校19校中5校が一条校)。 ・一条校を含めた国内の関係機関に対して情報提供を図るため、今後、国際バカロレアについて日本語で概要をまとめた冊子「国際バカロレアの概要(平成17年6月)」の内容を更新するとともに、文部科学省のホームページにも掲載する。					
予算チームの所見・効率化		1. 事業評価の観点：この事業は、昭和54年度から①国際バカロレアのカリキュラムの開発及び教材等の日本語への翻訳、②日本におけるワークショップやシンポジウムの開催等により、国際バカロレア事業への日本の立場を明確にするとともに、日本における高等教育機関等の国際化の推進に資することを目的として、国際バカロレア機構へ拠出金を出している長期継続事業である。 2. 所見：国際バカロレア機構の分担に基づく支出であり、現行において、見直しの余地はなく、現在の事業内容を引き続き維持すべきである。					
補記							

国際バカロレア事業への拠出

文部科学省
3百万円

【拠出金】

A.国際バカロレア機構
3百万円

国際バカロレアのカリキュラムの開発及び教材等の日本語への翻訳、日本におけるワークショップやシンポジウムの開催等。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。使途
 と費目の双方で
 実情が分かるよ
 うに記載)

A.国際バカロレア機構			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
拠出金	国際バカロレア事業の運営に必要な経費	3			
計		3	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0